

かわかみ通信 むすび

2020年4月
卯月号

さてさて、世の中は大変な事になってきました。
「新型コロナ感染」はどこか都会の話かとたかをくくっているところがありました。いよいよ福井県にも福井市や越前市、鯖江市で一気に感染の報告が出てきました。
(4月3日現在、感染者数30人、死者1人)

嶺南はまだです。嶺北だけに限れば人口10万あたりの患者数はおそらく日本全体のトップ10に入るのではないかと思います。(4月3日現在ワースト2位)

今回の「新型コロナウイルス」と2009年の「新型インフルエンザ」との決定的違いはとにかく特効薬がないことです。また、検査にしても2009年の場合はとりあえずインフルエンザの診断は簡易キットにより調べることができ、治療に繋がりました。

今の治療は隔離と対症療法(解熱剤・咳止めなど)のみ、重症になると人工呼吸器をつけますが、治るかどうかは本人の免疫力(+運?)次第という状態です。

この「新型コロナ感染症」の症状は「熱」「体のだるさ」「筋肉の関節痛」「咳」「鼻、目の症状」「におい・味の障害」「下痢」などですが、それらが全部、もしくは一部だけ出てきています。全く症状の出ない人もおり、この辺が厄介なところ。

現在、息苦しさ、しつこい咳、熱、強い体のだるさのない、軽い症状の方は自宅で安静にしていることが勧め

られています。軽めの症状でも新型コロナ感染であれば他人にうつす可能性があるため外出はされないほうが良いのです。自宅待機をされていても毎日状態の報告していただければ適切に判断対処いたします。

「新型コロナ感染症」の状態を見ていて強く思うことは「新型ウイルス」は100%国外からくるので、徹底的に感染発生の国からの人の流れを止めることこそが重要ということです。国外から多くの人が入り込んでから入国制限などしても、しないよりましという程度で、「時既に遅し」ということになります。

この度の「新型コロナ感染」に関しては特効薬、ワクチンが発見、開発されるまでは医療は無効です。「神頼み」「おはらい」など、薬などなかった古の祖先たちと同じレベルに今の私たちはあります。「新型ウイルス」は地球温暖化、森林開発による自然破壊など現代文明の負の部分と関係しているといわれています。全く皮肉なこと。

今回の「かわかみ通信むすび」は本来なら前回からの続きで、越前二ノ宮「剣神社」について書く予定でしたが、「志村けん」さんの訃報に接し、予定を変更いたしました。どうか、皆さんがコロナウイルスに感染されないことを祈ります。

川上医院 院長 川上 究

3つの【密】、絶対に避けて

換気の悪い
密閉空間



むんむん

大勢がいる
密集場所



ぎゅうぎゅう

間近で会話する
密接場面



がやがや

絶対に避けたい「3つの密」とは？

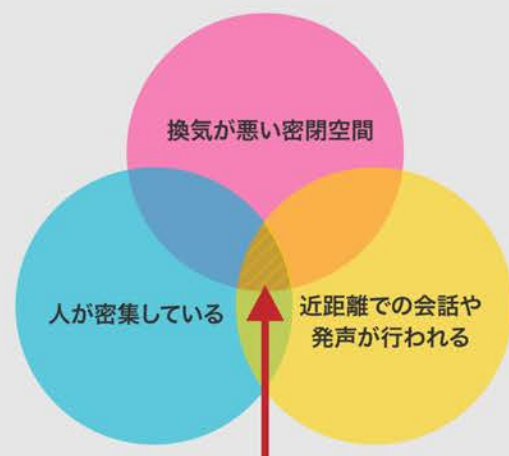
厚生労働省や各都道府県の知事などが、感染拡大を防止するために「密閉空間」「密集場所」「密接場面」の3つの「密」を避けるよう、お願いをしています。

私たちにできることは、この3つの条件が重なる場所を避けられるだけ避けて、新しいクラスターを作らないことです。私は3つの条件をぎゅうぎゅう(手の届くところに大勢の人)、むんむん(密閉空間で換気がわるい)、がやがや(近距離で会話や発声)と覚えておきましょう。

ほかの人にうつさないために

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。お互いが気をつけましょう。

集団感染が確認された事例の共通点



3つの条件の揃う場所がクラスター(集団)発生のリスクが高い

ライブハウス、スポーツジム、屋形船、ビュッフェスタイルの会食、雀荘、スキーのゲストハウス、密閉された仮設テントなど

あまたあまたの

奮闘記 第十の弾

【古代駅家の巻】 （ごだいえきかのまき）

世の中大変なことになってい
る。コロナ一色。オリンピック
どころではない。「草木芽ぶど
こ吹くかぜよ新コロナ（詠み人
知らず）」自然の草木は世の疫
病とは無縁、今は盛りと咲き乱
れている。こんな風になりたい
と思ってみても、そんな悠長な
ことを言ってる場合ではない。

世界の歴史を紐解くと、疫病
で国の盛衰を左右する事態なの
だ。そのうちの一つ、古代ロー
マ帝国の紀元165年から16
7年にかけて流行した疫病によ
り総死者数は1000万人を
超えた。この疫病によって受け
た打撃から帝国は二度と回復す
ることはなかったという。

また、つい1000年前、1
918年に発生した「スペイン
風邪」がある。アメリカ合衆国
の兵士の間で流行しはじめ、人
類が遭遇した最初のインフルエ

ンザの大流行（パンデミック）
となり、感染者は6億人、死者
は最終的には5000万人にお
よんだ。日本では当時の人口5
500万人に対し39万人が死亡、
アメリカでは50万人が死亡した。
もちろん時代は違い、医学環境
も進化した。早い収束を願いつ
つ、今はあくまで自己防衛。危
機感を持って、「ご用心ご用心」

さて、いつもの「ヨタヨタ歩
きの奮闘記」のお散歩は感染防
止のためお休み。ということ
今回は古代の駅家（えきか・う
まや）について一
席。

駅家とは、古代
日本の五畿七道の
駅路沿いに整備さ
れた施設。単に駅
（えき）とも称す
る。原則として30
里（現在の約16キ



敦賀近辺の3駅の位置図

ロメートル）ごとに駅家が設置
され、平安時代の『延喜式』に
は、402の駅（駅家）が設置
されていたことが記されている。
そのうち、この「ヨタヨタ歩
きの奮闘記」において敦賀郡に
置かれた「松原駅」と、その前
後である近江国（現滋賀県）の
「鞆結（ともゆい）駅」と、次
の同じ敦賀郡の「鹿藪（かへる）
駅」の3ヶ所を訪れたことを紙
面にて紹介したことがある。

駅家には駅使（えきし）が往
来に必要な馬とその乗具及
び駅子が準備され、駅馬を飼育
するための厩舎や水飲場、駅長
や駅子が業務を行ったり詰めた
りするための部屋、駅使が宿泊・
休憩を取るための施設および彼
らに食事を提供するための給湯
室や調理場、それらの施設を運
営するために必要な物資（秣・
馬具・駅稲・酒・塩など）を収
納した倉庫などが設置されてい

た。駅使とは当時、駅馬に乗用
することが許された公的な使者。
律令諸国に張り巡らせられた駅
路を通じて、情報の伝達を行う
ことを主な使命とした役人のこ



鞆結駅の比定地といわれる鞆結神社（現滋賀県高島市マキノ町）



松原駅の比定地と推定される櫛川にある別宮神社



当時の敦賀郡鹿藪駅の比定地といわれる鹿藪神社（現南越前町）

と。
駅家には駅馬といわれる馬を
飼育し、駅ごとに馬を乗り換え
て次の駅に向かう。馬は大路の
駅には20疋、中路の駅には10疋、
小路の駅には5疋配置されるの
が原則であったが、駅そのもの
が持つ地理的条件などによって
も増減があった。

ご存知のとおり敦賀は古来よ
り陸路と海路の交通の結節点で
あった。古代の北陸地方が「越
国」という地方王国を形成した
歴史や、律令時代の道路として
の北陸道は、畿内と日本海側中
部を結ぶ路線であった。令制国
の国府を結ぶ官道であり、奈良・
京都から琵琶湖西岸を通り敦賀
を経由して越前へと抜ける西近
江路ルートがあった。

今と違って、歩いて山越えを
して次の駅に行くことがいかに
大変だったか想像に難い。
この駅家といえ、今でいう
「道の駅」かな？ いや、それ
以上に重要だったかも知れない。

（河）

【発行】令和2年4月8日（水）
かわかみ通信Vol.42

（卯月号）

医療法人 川上医院

福井県敦賀市松原町1-39

TEL: 0770-22-0977